

TOTTORI UNIVERSITY HOSPITAL CENTER FOR CLINICAL RESIDENCY PROGRAM

鳥取大学医学部附属病院

研修センターだより

鳥取大学卒後臨床研修センター 第20号 2012年3月1日発行

※第20号の紙面※

1~2ページ. 韓国ASAN medical center海外研修
に参加して 2年目研修医 小谷美香

●今号のニュース・話題

3ページ. 卒後初期・後期臨床研修合同説明会を開催
荻野和秀4ページ. 第4回鳥取県臨床研修セミナーと研修医
交流会を開催 荻野和秀4~5ページ. 平成23年度忘年会報告
1年目研修医 上榎仁志 田中那津美5~6ページ. 文部科学省 山陰と阪神を結ぶ高度
医療人養成プログラムFD講習会の
実施報告 コーディネーター 植木 賢

●シリーズ

6~8ページ. 医局探訪
～麻酔科、いたみ緩和ケア科の巻～
麻酔診療科群 講師 山崎和雅

8ページ. 今後の予定

韓国ASAN medical center
海外研修に参加して

2年目研修医 小谷 美香

みなさん、こんにちは。

いよいよ、初期研修も終了しますね！また鳥大附属
病院でお会いできたら幸いです。研修医のみなさんが3年目後期研修で帰ってこれら
るのを待っています。さて、この原稿も女川救護班以来、2回
目を書かせていただくことになりました。
あまりまとまっていない文章ですが、
楽しく読んで鳥大を懐かしんでいただ
けたらと思います。今回は放射線科研修の一環として、韓
国ソウルのASAN medical centerに5日
間研修に行かせていただいたことにつ
いて報告します。当院の放射線科（私、入局決めました！）
では毎年、IVR teamの先生方がASAN
medical centerで2-3ヶ月間の研修をさ
れています。私が韓国へ研修に行かせ
ていただいた時には以前、韓国に留学なっていた遠藤先生（イケメン）がSGI（消化管・肝胆
膵系の国際学会）にoralで発表されるという事で、
先生と一緒に何の心配もなく日本を出発させていた
だきました。では、まずはASAN medical centerについて説明
させていただきます。同centerは1989年に創設され
て以来、その病床数は2743床と世界でも類を見ない
多さを誇ります。外来も一日1万人弱、救急外来も
300人弱、手術件数は年間60000件近く（全部、about



ですみません。すごーく多いっていうのをわかっていただけたら☆)にのぼります。施設規模も日本では考えられないくらいの大きさで、敷地内には18階建ての外來・入院棟、研究棟が立ち並び、地下はデパ地下を彷彿とさせる雰囲気醸し出しています。実際、生活用品は院内で何でも揃いますし、各種レストラン、アイスクリームショップやファッションストア、マッサージ店や葬儀場まであります。遠藤先生がいなかったら、たぶん迷子になっています。

さて、私の今回の研修では主に血管造影室について見学させていただきました。ASAN medical centerには9つの血管造影室があり、それぞれの部屋では血管内治療、腸管などの血管外治療を臓器別にそれぞれ行っています。医師・看護師・技師がそれぞれの臓器ごとに専門的に分化され、各部屋で一日5-9件、一日合計50件以上の血管造影・治療を行っています。中にはresidentがひたすらCVカテーテルをとりつづける部屋もあるそうです。日本ではまだ承認されていないデバイスがあって興奮しました。圧迫止血も人の手ではなく、写真の様な止血器具を使っていたのには驚きました。患者さんもリカバリ用の待合室ではなく廊下にベッドで並べられて止血されていました。韓国では当たり前ようです。確かに先のアンギオ件数を考えると、部屋が足りない



のかなあとはいいますが、やはり衝撃的でした。ちなみにスタッフの方々は、専ら英語で会話しました。アジア英語は聞き取りやすいものの、なかなか伝えたいことが出てきませんでした。普段から、英語を聞く、話す習慣の重要性を改めて認識しました。

ASAN medical centerの特色の一つとして、研究施設が併設され、学会発表や論文投稿が盛んである事が挙げられます。私が、certificate of completionの色紙をもって記念撮影している掲示板には今年の学会発表や論文投稿の実績が貼り付けられていました。しかも、放射線科だけで掲示板4面分になるので、内科・外科その他全科合わせると膨大な数にのぼると想像できます。今回、遠藤先生が発表されるSGIにも何人かASANの先生や看護師さんが参加されていました。SGIで堂々と発表される先生の姿を見て、私も「おお!!!」と触発され、学会発表や論文作成を頑張ろうと思っています。なかなか進みませんが(>_<)ただ、鳥大放射線科ではそのような機会をたくさん作ってくださるので、毎回とても勉強になっています。

韓国での5日間は大変新鮮で、驚きに満ちていました。自分を鍛えるためにも海外への留学はとても有用であると考えます。今回、5日間というプチ研修でしたが、いろいろな刺激を受けて帰国することが出来ました。

今回の研修につきまして、卒後臨床研修センターの皆さま、放射線科 小川先生、そして神納先生、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。これからも放射線科IVR teamの一員として邁進してまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします！



ニュース・話題

卒後初期・後期臨床研修 合同説明会を開催

荻野 和秀

平成23年12月5日(月)、国際ファミリープラザにおいて、卒後初期・後期臨床研修合同説明会を開催しました。説明会は、第1部・第2部の構成となって

おり、第1部では、関連基幹型病院(14病院)のプレゼンテーション、第2部では、鳥大病院の診療科(部)(22診療科(部))と関連基幹型病院の各ブースにおける個別面談を行いました。第一部のプレゼンテーションでは、短時間の中で、各病院の概要やプログラムの特色などについて判り易く説明していただきました。鳥大病院のプレゼンテーションは、前回に引き続き、藤井太平先生の作成したビデオを上映し、鳥大研修医の楽しくも充実した臨床研修がわかりやすく紹介されました。本当に一見の価値があります。第二部では、各ブースを自由にまわり個別に質疑等をしていただきました。学生47名、研修医35名、病院関係も鳥大を含め90名が参加し、とてもにぎやかな説明会になりました。今回の説明会で、鳥大病院の臨床研修・各診療科(部)と各研修病院の魅力が伝わったことと思います。



第4回鳥取県臨床研修セミナーと 研修医交流会を開催

萩野 和秀

平成24年2月3日(金)、第4回鳥取県臨床研修セミナーが開催されました。今回は鳥取県臨床研修指定病院協議会と共催で鳥取県内の研修医交流会を同時に開催となり、鳥大病院をはじめ鳥取県内から研修医48名が集まりました。臨床研修セミナーは、筑波大学附属水戸地域医療教育センター(水戸協同病院)の徳田安春教授に「症例から学ぶ総合内科のパールとピットフォール」というテーマで行っていただきました。症例を1例提示していただき、病歴から診断・治療に至るまで、研修医と質疑応答をしながら進行し、質疑応答の中で、診断・治療の様々なtipsを教えてくださいました。先生の巧みな司会もあって、あっという間の120分でした。また、徳田先生は臨

床上の素朴な疑問に対して、自ら検証して論文で発表されており、臨床・教育だけでなく、研究者としても優れている先生だと感銘しました。セミナー終了後に徳田先生も参加して研修医の交流会が開催され、各病院の指導医も交えて普段の研修の様子や近況などお互いの情報交換を行いました。各々の病院が研修医を囲い込むのではなく、鳥取県全体で研修医を育てるという鳥取県内の病院のスローガンが再確認されて、とてもよい交流会ではなかったかと思えます。



平成23年度忘年会報告

1年目研修医 上栞 仁志 田中那津美

12月14日、ワシントンホテルにて平成23年の卒後臨床研修センター忘年会を開催させていただきました。

日頃お世話になっている先生方に多数ご参加いただき、とても楽しい会になりました。

今年は研修センターにまつわるクイズ大会(豪華景品付き)、研修医作成の爆笑年忘れVTR上映会などのイベントを行いました。クイズ大会では研修医が半分くらい景品をさらってしまうという気まずい場面もありましたが、先生方にも壇上で風船割り対

